

公立岩瀬病院中長期計画の進捗状況について

平成 24 年 4 月～平成 25 年 2 月までの達成状況（中長期計画 29 ページから 30 ページ）

【3】 目標達成のための具体的な取り組み

1 民間的経営手法の導入

	目 標	取組の実施状況	自己評価
民間病院会計に準じた会計制度の採用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理会計による予算管理と経営分析導入 ・ 財務経理体制の強化と外部監査の継続 ・ 部門別損益計算の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会計システムの更新について検討開始した（現在 3 社のシステムのデモ実施中）。 ・ 平成 26 年度に実施予定の公営企業会計制度改定に向けた準備を開始した。 <ul style="list-style-type: none"> ①資産管理台帳の整備 ②セグメント会計の実施 ③23 年度決算によるシミュレーション ・ 公認会計士の指導を毎月定期的に受けた 	26 年度新会計制度の実施にむけた準備を計画通り実施
B S C の本格導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 顧客、財務、業績プロセス、学習と成長の視点から目標管理、評価をすすめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院長 B S C を第一次版として作成した。 ・ 2 月 23 日病院幹部 18 名参加で研修を実施した。 	25 年度 5 月末日まで職場 B S C を作成予定

2 収入増対策

		取組の実施状況	自己評価
医師の招聘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医クラスの医師招聘 ・ 医師招聘プロジェクトチーム活動強化 ・ 女性医師の受入体制の整備 ・ 研修医受入体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師招聘会議を毎週開催し、医師招聘に向けた具体策を検討。 ・ 県外医師招聘に向け積極的に取り組み、杏林大学、順天堂大学、日本医科大学、名古屋大学、山口大学を訪問医 	指導医クラスの医師招聘以外は、計画通り実施

	<ul style="list-style-type: none"> ・インセンティブの強化 	<p>師の派遣を要請した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順天堂大学より4月から消化器内科医師の毎週火曜日支援が決定した。 ・研修医の受入は平成21年度より毎年1名ずつの初期研修医を受け入れているが、25年度も1名の受入が決まっている。 ・研修の機会を充実させるなどのインセンティブ実施を図った。 ・女性医師の受入体制の整備を図り当直室を整備した。 	
D P C 対策	<ul style="list-style-type: none"> ・D P C / P D P S 評価対策 ・医療情報管理室の機能強化 ・診療情報管理室の機能強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・D P C 導入実施済みで、医療の効率的な運用実施している。 ・全国1400施設以上の急性期病院で導入され、D P C 病院間での比較検討を行い経営改善の指標としている。 ・診療情報管理室を、医師へ情報発信力を高めるために医局の隣に移動を行った。 	計画とおり実施

地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・病診、病病連携、地域連携パスの推進 ・医療・保健・介護・福祉とのネットワーク強化、連絡協議会の立上げオープンシステムの拡充と入院機能への特化 ・チーム医療による情報共有の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介率 24年度目標 40% 実績 35.0% (24年度2月現在平均) ・逆紹介率 24年度目標 30% 実績 31.8% (〃) ・オープンシステム委員会総会を開催 6月14日(木) 参加者 228名 ・オープンシステム勉強会の開催を毎月定期的に行っている。登録医 137名(24年2月現在) ・国のすすめる包括ケアシステムに向け、院内に医療・保健・介護・福祉とのネットワークを考える研究会を9月に立ち上げ、毎月定期的に開催。 ・医師会の包括ケアシステム準備会に参加した。 ① 1月29日(火) ② 3月26日(火) 	紹介率は目標に届かなかったが、その他は計画とおり実施
------	--	--	----------------------------

3 経費削減・抑制対策

		取組の実施状況	自己評価
人的資源の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・BSCによる目標管理・評価制度の推進 ・人員配置の適正化 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入職員として看護師15名、理学療法士1名、事務2名、調理員2名を採用した。「公立岩瀬病院中長期計画」に掲げる基本方針、重点課題を積極的に推進するための体制を強化した。 ・医師事務作業補助者を2名増員し11名体制とし、医師労働の軽減に取り組んだ。 	<p>BSCについては25年度から実施</p> <p>その他は計画とおり実施</p>

医薬品・材料費の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリック医薬品採用の促進 ・医療材料費の部門別管理の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・後発品への変更を引き続き促進した。 ・X線、CT造影剤の後発品導入を実施した。 ・後発品率（目標 9.0%）24 年度実績 12.31%（12 月末） 	計画とおり実施
その他経費削減	<ul style="list-style-type: none"> ・物流管理システム体制の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・消耗備品一部について見直しを図り、経費削減を図った。 ・電気、燃料費の削減に向け管理を強化、経費削減を図った。 ・清掃、医事業務の委託業務を見直し、委託業務の圧縮を図り経費削減の実施を予定している。 ・代替品の採用による経費削減（消耗備品等）を実施した。 	計画とおり実施

4 その他

		取組の実施状況	自己評価
医師負担の軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助者の拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助者 11 名を配置している。 ・常勤医師の減に伴い、外来診療及び当直業務が負担増になっており院外の診療支援について取り組みを行った。 外来支援医師 福島県立医大 毎週 12 名 その他県内 毎週 7 名 県外 毎週 3 名 	計画とおり実施
経営形態の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトチームの立上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人化に向けた事務担当チームを立ち上げ、学習会を実施。 	25 年度以降の課題とした
広報活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座の推進 ・親しまれるホームページを作成し、情報発信を強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講座を延べ 33 回実施した。 ・ホームページの更新を実施、内容の充実を図った ・院長フェイスブックによる情報発信を開始した（平成 24 	計画とおり実施

	<ul style="list-style-type: none"> ・病院広報誌の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年 10 月から）。 ・ 病院広報紙発行部数を 500 部から 1,000 部に増やした（平成 24 年 7 月号から）。 ・ 中央診療棟・外来棟の建設状況をお知らせするページを公開した（平成 24 年 4 月から）。 ・ ホームページに対するご意見受付窓口のページを設置し、ホームページの改善に活用することとした（平成 24 年）。 ・ 病院広報紙の院内配置を見直し、バックナンバーの配置を行った。 ・ 新たに、病診連携で登録いただいている先生方を対象にした「連携通信」の発行開始（平成 25 年 1 月から）。 ・ 	
患者満足度の持続的な向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア組織(病院友の会)の立上げ ・ 患者会組織の立上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来ワゴンサービスを開始し好評を得ている（平成 24 年 5 月から）。 ・ 地域住民に対するアンケートを実施した（平成 24 年 8 月実施）。 配布数 1,814 枚 回収数 1,607 枚 （回収率 88.6%） ＜アンケート結果のおもな特徴＞ ○当院に期待する機能について救急医療が 72.6%、小児医療 44.6%と高かった。 ○急性期病院として、かかりつけ医からの紹介を優先していることを 58.3%の方が知らなかった。 ○病院の診療内容についてよく知っていたが、「病院フェスティバル」や「楽楽けんこうウォーキング」の病院行事は 7 割以上の方知らなかった。 	計画とおり進行中

オープンシステム

オープンシステムとは、患者中心の医療をすすめていくため、病院の施設・設備を地域の医師に開放し、各医療機関で診療中の患者さんをそのかかりつけ医と当院の医師が共同で診療にあたるというシステムをいう。

DPC/PDPS

DPC/PDPS とは「Diagnosis Procedure Combination/Par-Diem Payment System」の略で、従来の診療行為ごとに計算する「出来高払い」方式とは異なり、入院患者さんの病名とその症状・治療行為をもとに厚生労働省が定めた1日当たりの金額からなる包括評価部分（投薬、注射、処置、入院料等）と出来高評価部分（手術、麻酔、リハビリ、指導料等）を組み合わせで計算する計算方式をいう。

BSC（バランス・スコアカード）

バランス・スコアカードとは、アメリカ、ハーバード・ビジネススクールのロバート・S・キャプラン教授と経営コンサルタントのデビッド・P・ノートン氏が開発した経営管理手法。

企業の業績（経営者の責任）をこれまでの定量的な財務業績からだけではなく、多面的に定義することが必要だとし、それらをバランスよくマネジメントするための手法として提唱された。

①財務②顧客③内部プロセス④従業員の学習とスキル、といった4つの視点で業績や成果が定義され、4つのバランスを保ちながら企業としての財務業績を伸ばすことだといわれている。

外来ワゴンサービス

外来患者さんの待ち時間対策の一環として御茶、水、新聞、雑誌などを直接声をかけながら手渡ししているサービス。

患者さんからたいへん好評で、午前中に実施している。クレームについても率直にお聞きし対応している。